

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025年 3月 14日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 203-0054

所在地 東京都東久留米市中央町4-7-1

評価機関名 特定非営利活動法人アクティブハンディネット

認証評価機関番号

電話番号 042-470-7050

代表者氏名 理事長 君島 久康

機構 05 - 154



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	君島 久康	経営	H1202005
	②	中條 りう	福祉	H1302050
	③	津田ほなみ	福祉	H2101072
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	児童発達支援センター(旧福祉型児童発達支援センター)			
評価対象事業所名称	東久留米市児童発達支援センターわかさ学園		指定番号	1354800029
事業所連絡先	〒	203-0023		
	所在地	東京都東久留米市南沢4-7-18		
	TEL	042-467-3275		
事業所代表者氏名	園長 宮沢 智城			
契約日	2024年 10月 4日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 10月 29日			
利用者調査結果報告日	2024年 12月 25日			
自己評価の調査票配付日	2024年 10月 29日			
自己評価結果報告日	2024年 11月 29日			
訪問調査日	2025年 1月 9日			
評価合議日	2025年 1月 9日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	コロナやインフルエンザ等の感染防止を図るため、引き続き事前検温、手指消毒、マスク着用等、万全の体制で臨んでいる。利用者調査では、家族によるアンケート方式(自記式)で実施した。評価者は、行政の福祉部門担当経験者、元地域包括支援センター長経験者、社会福祉法人の施設長を選任している。訪問当日は、施設の視察、事前に送付してある利用者調査、職員調査を再度確認し、分析シート及び事業プロフィール、各種資料を基に、会議室でヒアリングを実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025年 3月 10日



事業者代表者氏名 園長 宮沢 智城

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 健康で毎日わかさ学園に通える子どもになろう（丈夫な体）                  2) “おや何だろう”と目を向け、何にでも向き合える子どもになろう（意欲）                  3) 友だちや先生ときもちを通いあわせて楽しくあそべる子どもになろう（共感）                  4) 自分のできることをがんばれる子どもになろう（身辺自立）</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>児童権利宣言、子どもの権利条約に則り、東久留米市児童発達支援センター職員として公的サービスを担い、真摯に業務に向き合い東久留米市の障害児童の福祉の向上に努める。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>児童権利宣言、子どもの権利条約に則り、東久留米市児童発達支援センター職員として公的サービスを担い、真摯に業務に向き合い東久留米市の障害児童の福祉の向上に努める。</p>

調査対象

2024年10月1日現在の利用者とその家族を対象とした。

調査方法

アンケート方式(自記式)。事業所から保護者へ調査票を配布。記入された調査票は、封筒に封緘の上、郵送で評価機関で直接回収を行なった。対象世帯29世帯の内、22世帯から有効回答を得た。

利用者総数	32
利用者家族総数(世帯)	29
共通評価項目による調査対象者数	29
共通評価項目による調査の有効回答者数	22
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	75.9

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は、「大変満足」が77%、「満足」が23%となっており、満足と答えた人が100%を占めている。設問の中で、「はい」の比率が高かった上位は、次の項目であった。  
 問1、事業所に通うことが、ご本人の身体機能や健康状態に良い影響を与えていると思いますか、問2、事業所の活動は、お子さんが興味や関心を持てるものになっていると思いますか、問8、あなたは、職員の言葉遣いや態度、服装などが適切だと思いますか、以上の問いは、いずれも100%が「はい」と答えている。  
 問3、事業所に通うことが、お子さんの情緒面での発達の役に立っていると思いますか、問5、お子さんの様子や支援の内容(体調変化時の対応を含む)について、事業所と情報共有できていますか、問9、お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの職員の対応は信頼できますか、問11、あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか、問12、お子さんやご家族のプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか、以上の問いはいずれも95%が「はい」と答えている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	22	0	0	0
内股歩きになっていると教えていただき、園でも靴でサポートしていただいています。 先生方がプロの視点で様々なアドバイスを下さるので助かっています。 ここに通ってから子どもは明らかに良い方向に向かっていっているので、日々感謝しております。 先生方のきめ細かい指導のおかげで本人も成長していて、家庭でも安定して過ごせており感謝しています、との回答だった。				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	22	0	0	0
特にコメントはなかった。				
3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っているか	21	1	0	0
この3年で本当に落ち着きました、との回答があった。				

4. 事業所に通うことで、子どもに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についているか	20	1	1	0
かなりお友達と仲良くできているようです。 人に対する愛着などが育っていると思います。 教えてもらったルールに従って遊んだり、過ごしたりできます、との回答があった。				
5. 子どもの様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	21	0	1	0
小さなすり傷も手当とお知らせいただいて、助かっています。 日々感謝しています。良い面を引き出そうとしてくれるので、子どもの良い所を伸ばしてくれていると思います。 入園してから子ども本人もかなり変わってきています。出来ることも増えてきて、話すことも増えてきて、感謝しています、との回答があった。				
6. 家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	19	3	0	0
保護者間の交流があるので、気軽に悩みなど相談できて助かっています。 小さな悩みや子どもに関することを含め、色々と相談させていただいております。療育に関することだけでなく、私自身のことも気に掛けて下さり、有難く思っています。 先生方は、子どもに寄り添って下さるのはもちろんのこと、偏食や睡眠などで困った際にも親の話も都度親身になって下さり、とても支えになっています、との回答があった。				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	20	2	0	0
特にコメントはなかった。				
8. 職員の接遇・態度は適切か	22	0	0	0
いつも良くしていただいています、との回答があった。				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	21	1	0	0
看護師さんとも話ができて情報共有しています、との回答があった。				
10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	18	2	0	2
特にコメントはなかった。				

11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	21	1	0	0
園に通い始めて以前より落ち着きが出てきて、良かったです。 とても温かいので私もほっとする場所ですし、そんな温かい所に子どもの居場所があってとても安心しています、との回答があった。				
12. 子どものプライバシーは守られているか	21	1	0	0
特にコメントはなかった。				
13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	20	2	0	0
特にコメントはなかった。				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	16	5	0	1
特にコメントはなかった。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	20	2	0	0
特にコメントはなかった。				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	16	5	0	1
特にコメントはなかった。				

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者の意向は、父母会の開催時や日々の連絡帳、送迎時での会話で把握に努めている</p> <p>事業所では、利用者や職員の意向、地域福祉情報の把握を重要視している。利用者の意向は、第三者評価利用者調査結果のほか、2か月に1回の父母会、日常的な連絡帳のやり取り、送迎時の場を活用している。職員の意向は、障害福祉課長との個別面談等で把握している。地域福祉の動向や情報は、子ども家庭庁、東京都の担当部署、障害福祉課、障害児相談支援事業所等との連携により情報を収集、把握している。事業所の経営状況は、園長が障害児福祉計画や事業報告書で確認し、課題となる点は、正規職員会議や日々の振り返り等でその都度検討を加えている。</p> <p>国と東京都の方針を踏まえ、障害児福祉計画を具体的に策定、運営している</p> <p>事業所では、国や東京都、市の方針に基づいて、障害児福祉計画が策定されている。同計画は、第2期(令和3～5年度)が実績、第3期(令和6～8年度)が見込みとなっている。計画の冒頭「市において、児童発達支援センターわかさ学園を地域における中核的な支援施設として位置付け、事業所連絡会の開催や研修の実施など、地域で障害児通所支援事業等を実施する事業所と緊密な連携を図りながら、重層的な障害児通所支援の体制整備を進める」と基本的な考え方を明示している。予算は、障害児福祉計画に基づき、市の予算として編成されている。</p> <p>計画の目標値や達成度は、障害児福祉計画や主要施策成果説明書で詳細に把握できる</p> <p>計画の推進方法、目標、達成度合いを測る指標等については、障害児福祉計画に第2期(令和3～5年度)を実績として、また第3期(令和6～8年度)を見込みとして、具体的な数値目標を掲げている。また、児童発達支援の事業内容について「未就学児、日常生活における基本動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等の支援を行なう」と分かりやすく記述されている。さらに、事業の成果は、主要施策成果説明書で詳述され、児童在籍等の状況、入退園の状況、退園後の進路先が細かく記載され、将来への理解と見通しが持てるものになっている。</p>		

## I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリ1		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当	
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当	
カテゴリ1の講評			
<p>事業所の理念、ビジョン、基本方針等は、障害児福祉計画等で明示されている</p> <p>事業所が目指している理念、基本方針等に対する職員の理解が深まるように、毎日の振り返りや全体職員会議、年度末総括の場等を通じて、周知をしている。また、障害児福祉計画で「児童発達支援センターわかさ学園を地域における中核的な支援施設として位置付け(中略)、本市における療育の向上と障害児の地域社会への参加・包容(インクルージョン)の推進に努める」とその方向性を明示している。利用者や保護者等に対しては、わかさ学園のしおりを毎年配付するほか、入園説明会や保護者会、入園式・始業日に対面での説明を行なっている。</p> <p>園長はその役割と責任を障害児福祉計画、組織図、全体職員会議等で周知している</p> <p>園長を始めとする経営層は、理念等の実現に向けて、自らの役割と責任を障害児福祉計画、わかさ学園のしおり、東久留米市児童発達支援センター組織図で具体的に明示している。組織図では、市長を頂点として、福祉保健部長、障害福祉課長、園長、各リーダー、各グループ及び会計年度・保育の構成、看護・保健、給食調理・栄養管理、機能訓練、送迎、併設する発達相談室の各担当が記載され、職員はその位置付けと任務が明確に把握できるようになっている。また、園長は、日々の振り返りや全体職員会議等で理念、基本方針への深い理解を求めている。</p> <p>公的サービスの運営者として、常に公平性と中立性を持って日々支援にあたっている</p> <p>重要な案件の検討や決定の手順等については、重要案件は、毎週開催の全体職員会議→園長→障害福祉課長→福祉保健部長→市長(理事者)への報告と検討、決定という流れが構築されている。特に、事業所では、直接処遇、サービスを行なう職員が子どもや保護者のニーズを把握し、必要な手立て、方針を挙げるという強みがある。事業所は、公的サービスの運営者として、利用者や市民の必要とするサービスを制度に則り、公平性と中立性をもって広く平等に提供するという運営理念に裏付けされている。保護者等には、通知文の配布や父母会等で伝達されている。</p>			

### カテゴリー3の講評

職員調査において法、規範等を遵守していると100%の職員が「はい」と答えている

社会人、福祉サービスに従事する者として守るべき法、規範、倫理等への理解が深まるように、自治体職員の研修計画が整備され、事業所の職員もその計画に沿って各階層に応じて研修に参加している。研修では、法、規範、倫理等への理解が重要なテーマとして挙がっている。また、専門性のある内外の研修にも随時派遣するほか、最近では短時間の動画視聴の研修も取り入れている。さらに、日々の振り返りや全体職員会議の場を活用しての周知にも努めている。職員調査では「法、規範、倫理等を遵守している」と100%の職員が「はい」と答えている。

虐待チェックリストを子どもの視点、職員の視点で実施し、振り返りを行なっている

利用者の苦情等の相談先は、契約時に重要事項説明書等で説明し、同意の署名と捺印を得ている。窓口として、園長、障害福祉課、東京都社会福祉協議会の開設日程と連絡先が明示されている。また、苦情解決のフロー図が作成され、報告、改善が速やかに行なわれる。虐待防止も重要視し、虐待防止委員会の実施や虐待防止等の研修を開催するほか、虐待チェックリストを子どもの視点と職員の視点で定期的に行なっている。虐待の疑いがある場合は、こども家庭センターや要保護児童実務者会議との連携、必要時には児童相談所への通報義務を常に意識している。

公的機関としての信頼性等から関係機関との連携の取りやすさが強みとなっている

事業所では、運営の透明性を図るため、WAMNET(福祉・保健・医療情報)での情報公開、市のホームページの公表のほか、日常的な見学の受け入れを進めている。また、ボランティアや実習生では、保育士の実習、中学生の体験ボランティア等の実績がある。さらに、地域貢献面では、公的機関としての信頼性等で連携の取りやすさという強みがある。東京都市立児童発達支援センター連絡会や市内児童発達支援事業所連携会議での運営への参画、地域に還元する視点での専門研修会の実施、市内障害者団体と協働での地域イベント等を積極的に行なっている。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>毎年度環境会議によって防火・防災・救急緊急時・非常時対応マニュアルを更新している</p> <p>事業所では、リスクについて障害福祉課との課題協議に努めるほか、非常災害時に備え、入所の契約時に保護者に「災害時・緊急時連絡カード」の提出を求めている。また、施設内の環境会議によって、毎年度、防火・防災・救急緊急時・非常時対応マニュアルを更新し、定期的な避難訓練と共に災害時の迅速な行動に繋げている。事業継続計画も自然災害と感染症に分け策定されている。あわせて、園児送迎バス安全管理マニュアル、プール活動マニュアル、睡眠観察表、施設内防犯対策、園外保育時のチェックリストと、事業所の活動を捉えたものとなっている。</p> <p>個人情報等は、市役所のセキュリティ管理下に置かれ、厳重な体制が構築されている</p> <p>利用者の情報の収集、利用等にあたっては、個人情報保護法に基づき、契約時に契約書、重要事項説明書で丁寧に説明している。特に重要事項説明書では、利用者の記録や情報の管理等について謳い、利用者の求めに応じての開示、記録及び情報のサービス提供から5年間の保存、サービス提供時に必要な情報提供に対する同意書の取り交わしを明示している。また、データ等は市役所のセキュリティ管理下に置かれ、紙ベースの情報は施設への侵入に対する対応に努めている。なお、職員は個人情報管理に係る研修受講が必須で、定期的な意識づけが行なわれている。</p>		

カテゴリー5の講評

期待する職員像は「公的サービスを担い、市の障害児童の福祉向上に努める」としている

事業所は、地域の障害児サービスの中核施設であり、期待する職員像は「児童発達支援センター職員として公的サービスを担い、真摯に業務に向き合い市の障害児童の福祉の向上に努める」としている。こうした方針等を踏まえて、常勤職員、会計年度任用職員の採用では、障害福祉課や市長の意向を踏まえ、市の職員課を通じて実施している。異動等については、福祉専門職であるため、異動がなく、専門性の積み上げが可能となる強みがある。また、職責と職務内容に応じた長期的展望(キャリアパス)については、市の人事評価制度によって実施されている。

市の研修はもとより児童発達支援センターの研修にも職員を派遣し専門性を高めている

職員の育成面では、市の年間の研修計画に基づき、階層別や専門研修等計画的に派遣し、自治体職員としての基本の修得に努めている。また、施設内外の専門研修のほか、児童発達支援センターの独自研修にも派遣している。センターでは、虐待・身体拘束・権利擁護研修が必須で、あわせてケース会議が組み込まれている。事業所では、経験等に基づき、受講を奨励し、専門性を高めている。職員調査でも、様々な研修機会があると90%以上の職員が答えている一方、専門性を高めるための研究・研修が不足しているとの指摘もあり、今後の課題といえる。

職員の気づきや業務改善に向けた提案等は、毎日の振り返りで検討し実践に繋げている

職員の定着と意欲向上に向けて、処遇面では市の給与規定、人事評価制度等に則り、適正に運用されている。また、障害福祉課長と職員の面談も定期的を実施され意向を把握している。さらに、職場環境面では、健康診断の実施、産業医の相談等が可能となっている。職員の学びの結果は、所定の報告書を市に提出することが義務付けられ、必要により職員間で共有することは可能となっている。職員の日頃の気づき等は、毎日の振り返りの場を活用し、積極的な意見交換に努めている。ちなみに、職員調査では良好な人間関係があると90%以上の職員が答えている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

課題・目標・・・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う行事等の再開。これまで縮小、中止していた事業をどう再開するかは重要課題としていた。特に、医療的ケア児も含む障害乳幼児は感染による重篤化のリスクも考えられ、事業所もハイリスク施設として制限を受けていた。コロナ以前に完全に戻すのではなく、各行事について検討を進めた。

取り組み・・・①親子キャンプ・・・コロナ禍では中止していたが再開し、宿泊地を山梨県から埼玉県に変更し、行程を短縮し、緊急時にも対応できる近場とした。②うんどう会・・・コロナ以前は全園児、保護者、親子療育グループ等来場制限なしで午後まで実施していたが、グループ毎のうんどう会を午前中のみで開催、観覧制限もしたが、開催の仕方を検討、全体での開催、午前中のみで終了するように時間短縮を図った。

取り組みの結果と・・・感染症への警戒、防止や予防への配慮を継続し、子どもたちの成長と発達を共有できる機会を保障しつつ、行事一つひとつについて検討を進めた。

今後の方向性・・・今年度の計画においても行事運営をその都度振り返り、見直しをしつつ、サービス向上に繋げていく。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

新型コロナウイルス感染症は、周知の如く、様々な面で多くの影響を与えている。事業所においても、年間行事が縮小、中止せざるを得なかったことは容易に想像できる。事業所では、感染対策を継続しながら、日常的な療育についても利用者や保護者としてしっかり連携しながら、子どもたちの成長と発達を繋げる取り組みが大切と認識し、今年度も利用者や保護者が安心して参加できる行事運営を行なってきている。そんな中でも行事運営に検討と工夫を加え、利用者や保護者と共に、丁寧に進めることを心がけ、新たな形に変更していきながらも、一つひとつの行事は成果のあるものになっている。さらに、今年度の計画においても、行事運営に於いてその都度振り返り、見直す点があれば変更しつつ、サービスの向上を図る姿勢を高く評価したい。

事業所は、障害児療育の施設として、保育園や幼稚園と同様に、集団での生活に重点を置き、年間の四季折々の行事で子どもたちの力をつけていくことを大切にしている。今後とも、しっかりとPDCAサイクルを回しながら、成果を積み上げることを期待したい。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1			標準項目	
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			標準項目	
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3			標準項目	
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4			標準項目	
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			標準項目	
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当	

課題・目標・・・子どもの個別支援計画を元に定期的に目標と課題を職員間で共有することで、支援の方向性を明確にする。  
 取り組み・・・個別支援計画を元に短期、中期、長期の目標や課題を継続的に共有することで、支援の効果を確認する。  
 取り組みの結果・・・以前から短期、中期、長期の目標や課題を共有することは実施していたが、継続することで、職員間の支援の方向性が明確になっている。また、一般職員と会計年度任用職員が療育後に振り返りとして、子ども達の様子で気が付いたことや疑問に感じたことをすぐに職員間で共有する環境が整ってきた。  
 今後の方向性・・・引き続き、個別支援計画を元に、短期、中期、長期の目標と課題の共有化を進め、その都度支援の効果や見直すべき視点を検証する。

目標の設定と 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

事業所の個別支援計画は、年2回、5月と9月に見直しが行なわれ、せいかつとして「食事、排泄、着脱」、運動・感覚、社会性、言語・認知、身体拘束の項目のほか、計画の提供期間等詳細な支援計画が作成されている。計画は、ねらいと具体的な支援内容が記載され、取り組みの姿、今後の支援を各項目毎に明示している。事業所では、日々の振り返りのほか、月案会議を全職員で定期的開催し、目標や課題について、保育以外の専門職を含め多職種で、子どもの姿を日中や家庭の様子、保護者の様子も含め多角的に協議している。その際、子どもの成長を短期、中期、長期的な視点で目標と課題設定をすることは特に重要で、成長の過程に応じた支援に繋がるものとなっている。事業所の療育目標である「丈夫な体、意欲、共感、身辺自立」に向けた積極的な取り組みを評価し、地域の中核的な支援施設として、市内の障害児の療育の向上に果たす役割に期待したい。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>事業所情報はパンフレット、ホームページ、サービス情報公表システム等で提供している</p> <p>事業所は、公的機関としてパンフレットや市報、広報誌及びホームページや障害福祉サービス等情報公表システムを活用し、幅広く情報発信を行なっている。パンフレットは行政の窓口を設置しており、事業の目的や内容、定員、通園形態、年間行事予定、日課等が分かりやすく記載されている。また、ホームページでは、通所部門において0歳～6歳までの未就学児を対象に、一人ひとりの状態に応じた支援を行なっていることを紹介している。具体的には、グループ指導を実施しており、障害種別を問わず、医療的ケアが必要な園児も受け入れている。</p> <p>公的機関として関係機関とは多岐にわたり、情報共有・連携を図っている</p> <p>事業主体である市障害福祉課には、主要施策成果説明書を提出し、事業報告を行なっている。また、東京都市立児童発達支援センター連絡会に参加するとともに、市内児童発達連携会議では当事業所が取りまとめ役を担い、年2回開催を実施している。さらに、健康課、教育部指導室、児童青少年課、こども家庭センターなど、さまざまな関係機関と積極的に情報交換や連携を行ない、市内の障害児に関する情報を幅広く把握している。加えて、幼稚園や保育園など、必要な関係機関に事業所の情報を提供し、連携体制の構築に努めている。</p> <p>問い合わせ等の多くは同事業所内の相談支援事業所経由で入り随時受け付け対応している</p> <p>事業所内には相談支援事業所が併設され、保育所等訪問事業を実施し、保育園を定期的に訪問し情報交換を行なっている。また、相談支援事業、親子療育事業に加え、健康課が実施する乳児健診や発達健診との連携を強化し、早期療育へつなげる取り組みを進めている。問い合わせの多くは保護者から寄せられ、相談支援事業所を通じて連絡が入る。見学は相談支援事業所の職員が随時受け付けており、活動の様子や事業所内を案内し、パンフレットを配布し詳しく説明している。また、他県に居住し転居予定の入園希望者には資料や申請書類を送付している。</p>		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p>契約時には園長はじめ保育リーダー、看護師が連携して丁寧な説明を行なっている</p> <p>入園時には、子ども及び保護者に対し、契約書、契約書別紙、重要事項説明書、学園のしおり等を使用して、園長はじめ保育リーダーや看護師がそれぞれ専門分野から丁寧に説明を行なっている。園長からは、通園に関する事項、二重サービス利用の注意点、給食費、個人情報保護などの制度的な内容について説明している。保育リーダーからは、通園時の持ち物や記名の必要性、送迎バスの時間など、日常的なルールや準備について説明している。看護師からは、家庭での体調変化時や園での体調変化時の対応について分かりやすく説明しており、同意を得ている。</p> <p>子ども・保護者の意向は入園時や入園後の家庭訪問で確認し個別支援計画に反映している</p> <p>入園時には、子ども及び保護者等から、妊娠から出産に至るまでの経緯、乳幼児期の様子、現在の日常生活の状況、医療に関する事項等を詳しく聴き取り、通園にあたっての意向を確認し、「アセスメントシート」に記録して、「個別支援計画書」に反映している。更に、4月から5月頃にグループ担当職員が家庭訪問を行ない、家庭での様子や課題、保護者の意向を確認している。例えば、「食事を温めてほしい」「大きな音や光が苦手」といった具体的な要望や、家庭では昼寝の習慣がない一方で、園では昼寝の時間が設けられていることなどを説明している。</p> <p>入園に当たり慣らし保育を経て保護者とこまめに連絡をとり不安軽減に努めている</p> <p>入園にあたっては、慣らし保育を実施している。慣らし保育は3日間行ない、保護者と一緒に登園して、療育の様子を見てもらっている。1日目はお弁当を持参し、2日目、3日目は給食を提供している。子どもの状態によっては、慣らし保育を延長することもある。慣らし保育終了後は、送迎バスによる単独登園となるため、家庭と園が密接に連携して連絡を取り合い不安軽減に努めている。また、就学前保護者会では、入学先への情報提供について説明し、保護者の意向を確認し対応している。更に新1年生保護者会を開催し、情報交換を行なっている。</p>		

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	11/11
3 個別状況に応じた計画策定・記録			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○非該当	
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>グループ担当職員が各専門職や相談支援事業所と連携してアセスメントを実施している</p> <p>アセスメントは前期・後期の2回実施している。グループ担当職員が看護師や相談支援事業所と連携し、アセスメントシートの項目に沿って詳しく聞き取りを行ない、子どもが置かれている環境及び生活全般を把握している。職員は、子どもの「できる」「できない」という結果だけで判断するのではなく、その過程での心の動き等子どもの内面を大切にしている。また、発達の遅れや弱点にのみ焦点を当てて練習を繰り返すのではなく、子どもの発達段階に応じた活動や日常生活に即した意味のある取り組みを通じて、多様な学びを得られる療育を目指している。</p> <p>全職員が参加する月案会議で専門的視点から協議し個別支援計画を作成している</p> <p>個別支援計画書の作成にあたっては、保護者や子どもの希望をもとに療育目標を設定し、月案会議で適切な支援内容を検討の上、作成している。月案会議には指導員に加え、各専門職も参加し、多角的な視点で協議を行なっている。個別支援計画書の見直しは、保護者や子どもとの面談を通じて実施状況を把握し、6か月に1回行なっている。また、必要に応じて月案会議で現状を確認し、適宜見直しを行なっている。個別支援計画書は、個人面談や家庭訪問の際に保護者や子どもへ丁寧に説明し、文書で同意を得た上で、保護者に交付している。</p> <p>サービス提供後に振り返りの時間を持ち支援を担当する全ての職員が情報を共有している</p> <p>子どもに関するアセスメントシート、個別支援計画書、個人記録、訓練個別支援計画、保健日誌などの情報は、子どもごとに個別ファイルにまとめて管理している。また、日々のサービス提供後には振り返りの時間を設け、支援に関わる全職員が参加して、その日の子どもの様子や支援内容を振り返り、情報を共有している。一方で、アシスタント職員とは、サービス提供中に15分間の振り返りを行なっているが、時間の制約により現状を深く検討することが難しい課題がある。朝礼については正規職員のみが参加し、当日の予定や業務内容の確認を行なっている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
◎あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
◎あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		<b>評点(〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
◎あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
<b>サブカテゴリ-6の講評</b>			
<b>環境会議で安全計画として救急緊急時マニュアル等を作成し事務室に設置している</b> 事業所の環境会議では、安全計画の一環として、防火・防災・救急時・非常時に対応する各種マニュアルを整備し、職員がいつでも確認できるよう事務室に設置している。子どものケガや病気など急変時の対応は、図表形式で対応の流れを示し、視覚的に分かりやすくなっている。また、園外保育については、準備する物や注意事項を具体的に記載し、職員の対応をスムーズにしている。さらに子どもを見失った場合の対応についても、職員の動きや連絡の流れを図表で明確化している。緊急時の役割分担も整理し、職員が迅速かつ的確に行動できる体制を整えている。			
<b>安全に関わるマニュアルについては、年度末の総括で見直しを行なっている</b> 安全に関わる各種マニュアルは、年度末に総括を行ない、環境会議で見直しを実施している。必要に応じて項目を追加し、追加箇所には年月日を記載することで分かりやすく管理している。日々の業務については、日課票で確認を行ない、変更が必要な場合は園長、指導員、看護師、管理栄養士などが参加する月案会議で検討し、必要に応じて見直しをしている。新入職員にはOJTを実施し、資料は用意されていないものの、口頭による丁寧な指導を行なっている。また、日々の振り返りの時間を活用して、不明点の確認や業務の達成状況の把握を行なっている。			
<b>子ども・保護者、職員からの意見や提案等は全体職員会議で検討・決定している</b> 家族との交流機会を多く設けており、行事への参加や父母会、保護者会、家庭訪問、個人面談、連絡帳を通じて、意見や要望を幅広く聞く体制を整えている。職員に対しては、朝礼・終礼、日々の振り返り、月案会議、全体職員会議などで意見や提案を共有しやすい環境を構築している。子ども・保護者および職員からの意見は、全体職員会議で検討・決定される。さらに、重要案件については、全体職員会議→園長→障害福祉課長→福祉保健部長→市長の手順に沿って検討・決定されるなど、明確な意思決定プロセスが確立されている。			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>契約時に個人情報保護について説明し「個人情報使用同意書」への署名、捺印を得ている</p> <p>個人情報保護については、契約書第11条「秘密の保持」に基づき、事業所および職員は、サービス提供の過程で知り得た、利用の子ども及びその家族に関する秘密を正当な理由なく他の事業者や第三者に漏らさないことを厳守している。また、他の指定障害福祉サービス事業者に子どもに関する情報を提供する際は、事前に「個人情報使用同意書」を取り交わし、子どもまたは保護者の文書による同意を得ている。さらに、職員については自治体職員であることから、情報管理に関する研修の受講が必須とされており、入職時には「誓約書」を取り交わしている。</p> <p>子どもの発達段階や障害種別を考慮し主体性を引き出す取り組みを行なっている</p> <p>事業所の療育目標は、【健康で毎日学園に通える子どもになろう(丈夫な体)】【「おや、何だろう」と興味を持ち、何にでも向き合える子どもになろう(意欲)】【友達や先生と気持ちを通わせながら、楽しく遊べる子どもになろう(共感)】【自分のできることを頑張れる子どもになろう(身辺自立)】であり、職員は、園児一人ひとりが自分らしく、仲間と共に成長できる療育を日々実践している。子どもの発達段階に応じた楽しい遊びを取り入れ、「もっとやりたい」「もっとやってほしい」と子どもが主体的に楽しめるような取り組みを行なっている。</p> <p>子ども間のトラブルについては朝礼・終礼で情報共有し、適切な対応策を講じている</p> <p>子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を心がけている。個人面談等で保護者からの要望を聴き取り「食事は温めてほしい」「ふりかけをかけてほしい」といった具体的な希望を支援に反映している。一方で「食事は食べないが、おやつなら食べる」といった情報については、保護者と話し合いながら支援方針を模索している。また、子ども間のトラブルは朝礼や終礼で情報を共有し適切な対応を取っている。例えば、送迎バス内で隣の子どもに手を出す等の状況があった場合は、座席を変更する、職員が注意深く様子を観察する等の対策を講じている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	26/26
1	評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている	評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている	○非該当	
評価項目1の講評			
<p><b>個別支援計画を支援の基礎と考え、職員間で共有し、保育・支援時に活かしている</b></p> <p>事業所は、重要事項説明書において、「サービスは個別支援計画に基づいて行なう」ことを明記し、家庭と確認している。個別支援計画は、総合指針として、保育で大切にしたいこととして、心の成長や、気持ちの発信を重要と考えた内容が記され、家庭と一緒に本人の成長を支える姿勢を明らかにしている。職員間では、月案会議時に、全職員・全職種で、個別支援計画を確認し、内容に沿った支援が行なえるように体制を整えている。日常の保育時にも、本人の支援内容に立ち返り、見直しができるように、個別支援計画を各グループで保管するようにしている。</p> <p><b>事業所の持つ専門性を活かし、特性に応じたコミュニケーションで成長を促している</b></p> <p>子どもの特性に応じたコミュニケーションが行なえるように、アセスメントを丁寧に取り、支援に活かしている。コミュニケーションの工夫としては、絵カードを用いて視覚的なアプローチを行なったり、実物を見せる等してイメージが共有できるようにしている。また、言葉での理解を促す支援が重要な子どもには、言葉を大切に考え、丁寧に伝える支援をしている。それぞれ、発達段階や、障害に応じた支援を行なうことを大切に考えて、多職種で連携し支援している。この場面において高い専門性が活かされ、子どもの成長に繋がるアプローチが実施されている。</p> <p><b>公設公営の信頼性から、関係機関とは綿密な連携が取れ、支援に活かしている</b></p> <p>関係機関との連携においては、公設公営である強みを活かし、様々な行政他機関と繋がり連携をとって支援している。また公的機関であることの信頼性から、教育機関、福祉関係機関、医療関係機関等とも連携が取りやすい。利用開始時には、医療関係の医療提供書等を確認し、支援時には、必要に応じて直接医療と連絡を取り合うこともある。通院同行も職員が行なうことで、関係機関との信頼関係も築いている。一方、事業所では、市内に大きな病院がないこともあり、医療面での強化が課題であると考えている。熱心な支援がサービスの質の向上に繋がっている。</p>			

3 評価項目3 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 身の回りのことは自分でできるよう、必要な支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している	○非該当
●あり ○なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>本人の持つ力を育み、発揮できるよう、環境を構造化し、自分でできることを支援して</p> <p>子どもの状況に応じて、生活上に必要な支援を行ない、本人の持つ力を最大限発揮できるように努めている。事業所のサービスは個別支援計画に基づいて提供され、日常動作訓練、集団生活適応訓練、創作的活動、機能訓練等が主である。日常動作訓練においては、基本的な生活スキルの獲得を目指して、排泄・手洗い、食事、歯みがき、着脱等の支援を行なっている。身の回りのことを自分で行なえるように、イラストのついた本人専用のかごを用意し自分で行なうことを大切にしている。構造化等により生活環境を整え、子ども自身にわかりやすく伝えている。</p> <p>「みんなの中で育つ」を療育で大切にしている視点とし、社会性の向上に繋げている</p> <p>事業所は、療育で大切にしている視点として「みんなの中で育つ」を挙げ、集団活動を取り入れ社会性の向上に繋げている。集団での活動は、主にグループ活動で行なっている。生活や遊びの中で「～ちゃんがやっているからやってみようかな」「～ちゃんと同じようにやってみよう」と心が動くことをねらいとし、子どもの中のやってみようという気持ち、共感や意欲を育むようにしている。グループ編成は、発達、運動能力、活動内容、体力、性別等を検討して3グループに分けている。週に1回は課題別グループも作り、将来にわたり発達していく土台作りをしている。</p> <p>機能訓練は触覚に働きかけを行ない、「ねらい」を明確にして実施している</p> <p>一人ひとりの有する能力を活かせるよう、個別支援計画に基づき支援を行なっている。中でも個別に時間をとって行なう訓練には機能訓練があり、常勤の作業療法士と非常勤の理学療法士が連携して支援している。機能訓練には、個別に行なう訓練と、集団の中で行なう訓練、グループ活動の中に組み込んでいるマッサージや感覚運動遊びの取り組み等がある。認知力や知的運動発達のために、感覚統合の支援に繋がる触覚へのアプローチを大切に考え、マッサージや遊びにねらいを持ち取り組んでいる。リラックスと本人の「できた！」を増やす取り組みをしている。</p>		
4 評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの健康状態について、必要な情報収集を行ない、健康増進と安心に繋げている</p> <p>子どもの健康状態については、入所時に保護者や医療機関等から必要な情報を収集し、看護師を中心に多職種で連携し支援している。日々の状態は連絡帳や、送迎時に体調確認を行ない、日中服薬が必要な園児への支援は看護師が服薬管理から服用まで支援している。医療的ケアが必要な子どもの場合は、訪問看護の報告者や医療情報提供書を確認し、日中に必要な看護を行なっている。基本的に病院への連絡は家庭が行なうが、必要時には主治医と直接連絡し情報を聞くケースもある。丁寧な医療との連携が健康増進と安心に繋がっている。</p> <p>健康会議を定期的に実施し、多職種で連携し、個別の状況を把握できる体制となっている</p> <p>子どもの状態に応じた健康管理を行なうため、事業所では定期的に健康会議を実施している。健康会議は、指導員、看護師、管理栄養士、作業療法士等が参加し、子どもの個別の栄養や保健、日々の状態について話し合い記録としてまとめている。会議後は園長や多職種、各グループで共有し、支援に活かしている。会議内容として「新しい薬を飲み始めての様子や、日中の眠気、食事形態について」など生活全般に及んでいる。医療的ケアが必要のない子どもについても丁寧な記述がされ、多職種が連携して一人ひとりの子どもの状態を把握できる体制となっている。</p> <p>体調変化時や、緊急時に備え、安全計画を作成し、迅速に対応する仕組みを構築している</p> <p>体調が急変した際は、家庭にすぐに連絡し、対応できる体制を整えている。家庭の長時間の外出時は、連絡帳に連絡先や行き先を記入してもらうようにしている。事業所では緊急時対策として安全計画を作成し、図式でシミュレーションできるようにしている。看護師の役割や園長・指導員の役割が明確化され、速やかに対応できる仕組みが構築されている。緊急時の持ち物等も記入され、緊急時こそ落ち着いた対応を行なえるように対策がとられている。最近医療的ケア児も増え、緊急時に対する意識が高まり、医療機関との日常的な連携が重視されている。</p>		

2 評価項目2 子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	○非該当
●あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	○非該当
評価項目2の講評		
<p><b>給食は事業所内給食室で調理され、良い香りとともに食事の楽しさを伝えている</b></p> <p>事業所では、園内に給食室を構え、管理栄養士がメニューの作成から調理を行ない、子どもの状況に合わせた給食の提供を行なっている。事業所のしおりには、給食の提供について、「偏食があつて入園した子どもも、毎日の生活の中で生活リズムの構築や先生との信頼関係、友だち関係から、少しずつ食経験が広がる。毎日給食の香りが漂ってきたり、自分の給食がわかることで、給食を楽しみにするようになる」と記述されている。訪問時も、給食の良い香りが漂い、散歩から帰った子どもはそれぞれ手を洗い、食事を楽しみにする様子が窺えている。</p> <p><b>子どもの状態に合わせた食事となるように、詳細な情報を多職種で共有し、支援している</b></p> <p>給食を作るにあたり大切にしていることは、子ども一人ひとりに合った食形態を見極めることとし、配慮食の提供を行なっている。入園時の聞き取りでは、摂食機能の状態像を明確にするため、口腔機能・運動機能・感覚機能と分けて詳しく聞き、食形態や偏食、家庭での食事の仕方についても明らかにしている。聞き取った内容は、管理栄養士・作業療法士・看護師・指導員が共有・連携し、状態に合わせた食事提供が行なえるようにしている。食事場面においても食べることに集中できるような環境を設定し、座席の工夫や、介助の仕方を検討し提供している。</p> <p><b>食への関心を深めるためのイベントや調理活動、日々の給食支援で食育を実施している</b></p> <p>食についての関心を深めるための取り組みとして、お芋ほりや、カレーを作る、ホットケーキを作る行事等が実施されている。実際に作る過程を見ること、匂いを嗅ぐこと、体験することにより、食への関心が高まるように支援している。また、職員調査の自由意見では「給食ボードの導入で給食への見通しが増えた」という意見があり、ホワイトボードに給食メニューを写真にして貼りだし視覚的にメニューを伝えるようにしている。食事前に給食ボードを確認する子どもも増え、食への関心が高まる一助となっている。毎日食べる給食は大切な食育と繋がっている。</p>		

5 評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもの主体性を大切に考え、気持ちを発信できる場や様々な関りを重視している</p> <p>事業所で大切にしている療育の視点として、自分から「あれがしたい！」「これが欲しい！」と要求を出せるような豊かな人間関係の構築や、安心して自分の力を発揮できる場が必要としている。そのために、それらを認め励まし共感する仲間や大人がいることが重要と考え、様々な関りを提供している。日常的な支援では個別支援計画に主体性の重要性を明記し、子どもの気持ちを引き出す支援を行なっている。「やりたい」と思うことは、その気持ちを褒めて次に繋げ、「やりたくない」気持ちは認め一緒に考える姿勢を示し、気持ちの成長を促すようにしている。</p> <p>体を動かす活動を中心とし、安心して活動ができる環境が整えられている</p> <p>日常の療育では、体を動かす活動を大切にし、散歩やリトミックを中心に実施している。散歩コースは近所を回るコースで午前中に行なう。雨の日等はリトミックでホールの中をスキップしたり、歩きながら手を上げたりと楽しく体を動かしている。園庭では砂場遊びや体を使った遊びも行なえ、安心して活動できる環境が整っている。ホールは窓が広く、日差しが差し込み冬でも明るく温かな様子である。利用者調査では「入園し、できることが増え、話すことも増えて感謝している」という声が寄せられ、活動の効果や安心できる居場所としての重要性が窺える。</p> <p>様々な行事を通して主体性を育み、成長を喜び合える機会が設けられている</p> <p>多様な経験の実施については、日常療育に限らず、行事等で主体的な参加ができるように取り組んでおり、四季折々の豊かな経験が積めるように計画している。年間行事としては、親子遠足、親子療育キャンプ、運動会、展覧会、保育参観、誕生日会、保育園交流と多岐に渡り、盛りだくさんである。運動会の目的として「毎日の保育で身に付けた運動の力をみんなの中で発揮しよう。喜び合おう」とし、集団の中の個の力の発揮や、主体的に取り組める姿勢を支援している。様々な行事の中で多様な体験をし、個々の成長が育まれる内容となっている。</p>		
6 評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている	○非該当
●あり ○なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>年に8回グループ毎や看護師等による保護者会を開催し情報交換の上支援に活かしている</p> <p>事業所では、子どもたちが楽しく元気に遊び心身ともに成長するために、保護者と子どもの成育を確認し、共有することを大切にしている。その一環として、グループごとの保護者会、看護師・作業療法士・栄養士からの保護者会と年8回開催して、情報交換を行ない日々の支援に活かしている。グループごとの保護者会では、子どもたちが楽しむ活動の様子、さらに今後の行事の内容を伝えている。また保護者一人ひとりから自己紹介を行なう時間を設定し、関係性を深めるとともに、保護者が困っていることも出し合い、共有できるよう配慮している。</p> <p>「父母会」があり仲間づくりを大切にし、情報交換や意見・要望集約の場となっている</p> <p>事業所が主催する保護者会以外に「父母会」があり、子育てを考え仲間づくりを大切にし、情報交換や意見・要望集約の場となっている。父母会の規約には「子どもたちの笑顔をいっぱい見たい」「親も楽しもう！」と記載され、その姿勢を見ることが出来る。父母会の活動が職員と協力し「学園生活のひとつまを作り出す」としている。勉強会も開催し、過去には市の職員を招き「福祉の制度」について学んでいる。勉強会に向けて、聞きたい内容をアンケートで募っていて関心を高める取り組みを行なっている。さらに父母会が主催するイベントも開催している</p> <p>保護者との関係は、利用者調査で100%の満足を得ていて、良好な関係性が窺える</p> <p>家庭での様子や事業所での様子に関する、保護者との情報交換は、送迎時の会話や連絡ノート、電話でのやり取りを行ない相互理解に努めている。また、事業所から発信されているお知らせ類も子どもたちの様子が映し出され、事業所の理解に繋がっている。保護者との関係は、利用者調査で100%の満足を得ており、信頼度が高く、良好である様子が窺える。意見・要望の欄には、相談に対する親身な態度、居場所として安心という声、支援力の高さへの信頼感等、多数挙がっており、職員の真摯な態度や子どもや保護者に寄り添う姿勢が高く評価されている。</p>		

7 評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>地域活動を積極的に行ない、子どもの生活の幅を広げる取り組みをしている</b></p> <p>地域の情報は事業所として収集し、参加するようにしている。公設公営の事業所として、地域行事の実行委員であることも多く、主体的な地域活動を行なっている。夏には「お日さまサンサンフェスティバル」、冬には「にぎやかカーニバル」等、地域で参加できる行事が多く、事業所は家族に情報を提供し、子どもの生活の幅を広げる取り組みを行なっている。にぎやかカーニバルでは、活動の中で馴染みのある曲を、ホールの舞台に立ち披露し、緊張感とともに、成果を伝え、成長を感じる場ともなる。他事業所との交流の場ともなり支援に活かしている。</p> <p><b>地域資源を活用し、多様な体験や交流を通し、地域活性化にも繋げている</b></p> <p>活動の中で「お芋ほり」や「運動会」等の行事は、地域の畑や体育館を利用して実施している。お芋ほりでは、長年芋畑を提供してくれる農家があり、芋の収穫時期がずれても様々な連携の下、実施することができている。芋ほりの行事は全グループ参加でき、園外活動が楽しめる場となっている。運動会は近隣の小学校の体育館を借用し、実施している。また、調理活動でも、近くの商業施設に買い物に出かけ、地域資源を利用した体験を行なうことができている。こうした社会資源の利用は、子ども発達への影響のみならず地域に向けた発信にも繋がっている。</p> <p><b>障害児福祉の中核拠点として、サービスの向上を目指した研修会を実施している</b></p> <p>事業所は、公設公営であり、障害児福祉の中核拠点として位置付けられている。また、専門人材を配置して、地域の関係機関と連携した支援の取り組みを実施し中核機能強化に努めている。その一環として、市内保育施設職員・関係機関職員にも広げた研修会を実施している。テーマは子どもの虐待や保育現場について等であり、より良いサービスに繋げていくことを目的としている。場所は事業所内会議室やホールを提供し、地域関係機関とともに障害児福祉を検討する場となっている。事業所の打ち出す姿勢が地域の児童発達支援の底上げに寄与している。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル①	公的施設としてどんな障害児でも受け入れ、その意義と役割は終わることはない	
内容①	事業所の施設案内では「発達に遅れや障害をもつ乳幼児に早期療育を行なうことにより人としての豊かな発達を促します。地域のすべての児童の健やかな発達の支援を行ないます」とその目的を掲げている。療育の目標としては、丈夫な体、意欲、共感、身辺自立を謳っている。地域における公的な支援施設としてその存在意義と役割は大きく、現在も変わることはない。医療的なケアが必要な子どもを含め、どんな障害児でも受け入れ、必要な療育を提供している。「通所することで子どもの成長が確実に見られた」という親の言葉にその意義が言い表されている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	1-1-3	重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している
タイトル②	サービス提供後に振り返りの時間を設け支援を担当する全ての職員で情報を共有している	
内容②	日々のサービス提供後に振り返りの時間を設け、支援を担当するすべての職員で情報を共有している。この振り返りには会計年度任用職員も参加しており、その後、正規職員による話し合いを通じて、サービス提供の質の向上に努めている。朝の打ち合わせは、正規職員が中心となり、当日の予定等を確認している。さらに、全職員による月案会議を定期的の実施し、直接処遇やサービスに携わる職員が利用者のニーズを把握し、一人ひとりの課題や個別支援計画について、保育以外の専門職も交えた多角的な視点から協議を行ない、療育方針等を決定している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	2-2-2	着実な計画の実行に取り組んでいる
タイトル③	自治体の運営事業として多岐にわたる関係機関と連携し早期療育に努めている	
内容③	市直営の事業所として、事業所は様々な会議への参加や関係機関との連携を積極的に図っている。東京都市立児童発達支援センター連絡会への参加に加え、市内の児童発達支援事業所連携会議では、当事業所が取りまとめを担当している。また、同事業所内の相談支援事業所との連携をはじめ、自治体の運営事業として、健康課、教育部指導室、子育て支援課、こども家庭センターなど、多岐にわたる部門と連携している。特に、健康課とは2か月に1度、乳児検診や発達検診の際に情報交換を行なう等、連携の充実を図り、早期療育に繋がるよう努めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員間の人間関係が良好であり、常勤・会計年度任用職員問わず、自分の持つ力を最大限に発揮し、専門性の高い療育に繋げている
	内容	事業所には常勤職員と会計年度任用職員（非常勤職員）が在籍しており、様々な場面で連携し支援している。職員調査では「職員間の関係性の良さや、会計年度職員の気づきや取り組み、短い時間でも毎日の振り返りから子どもの成長を共有できること」などが特に良い点として挙げられ、チームワークの良さが窺える。平均在職年数も長い職員が多く、働きやすさや雰囲気の良いことが伝わる。職員調査での「この仕事に意欲と働きがいがあるか」という調査項目では100%の数値となっている。熱意ある職員集団に支えられ、専門性の高い療育が実施されている。
2	タイトル	多職種が連携して、「一人ひとりが自分らしくみんなの中で育つ療育」を実践し、確かな成果と、生涯発達に繋がる土台作りを行なっている
	内容	事業所は、「一人ひとりが自分らしく、みんなの中で育つ療育」を掲げ、様々な専門職を配置し実践を積み重ねている。職種は看護師、管理栄養士、作業療法士、児童指導員及び保育士であり、多角的な視点で子どもを捉え療育指導に活かしている。療育後の振り返りや、会議においても多職種が参加し、情報共有が行なわれている。多角的な視点で継続的に子どもを療育し、将来にわたり発達していく土台作りを行なっている。事業所は子どもたち一人ひとりが大切にされると同時に職員一人ひとりがお互いを尊重し、誇りをもって療育に携わることも重視している。
3	タイトル	事業所と保護者が綿密に連携し、子どもの成長のため生活リズムや環境を整え、相談や悩みを共有し子どもの成長を喜び合う関係を築いている
	内容	子どもの成長のために、大人の働きかけが重要と考え、事業所と保護者は綿密に連携し療育を行なっている。事業所の活動は、保護者参加行事が多く、保護者会・父母会の活動も盛んである。保護者と子どもの成長を確認共有し、情報共有も行ないながら、家庭に合わせた相談も受け付ける姿勢を示している。利用者調査では施設に対する満足度は100%と高く、「療育の専門性の高さや、相談時には親身になって聞いてくれること、温かな居場所になっていること」と多くの感謝の言葉が寄せられている。事業所と保護者が一体となり、子どもの成長を促している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	無認可から公立化、施設の移転を経て現在地で16年が経過し、建物の老朽化、療育室が手狭等の課題があり、計画的な検討を進めてほしい
	内容	事業所は、無認可の2施設が統合されて1979年に市立わかさ学園として開園している。その後、都立公園の計画区域内であるため2009年に現在地に移り、その際、面積的な要因から定員の減員も余儀なくされた。2020年3月には開設40周年を数えている。現在の施設になって早16年が経過し、建物の老朽化を含め療育の部屋が少なく手狭であり、駐車場も少なく、施設自体へのアクセスも良いとは言えない。こうした状況を改善するためには、財源的な手立てを含めた計画的な対応が必要で、その存在意義を踏まえた前向きな検討を進めてほしい。
2	タイトル	事業所の運営管理は、園長が一手に担うという状況であり、所属する部や課との情報共有を含め関係性を深めるための体制作りを期待したい
	内容	事業所の組織形態は、市長をトップに、福祉保健部長、障害福祉課長、園長(管理者)兼児童発達支援管理責任者という位置付けになる。事業所は単体で、管理運営については園長が一手に担っているという状況になっている。園長は、現場職員のニーズを把握し、サービスの向上を目指して、平日頃から所属する部や課に意見を挙げている。しかし、本庁との物理的な距離感もあり、リアルタイムで現場で起こっている問題を迅速に共有するには課題が残されている。部や課は自らの所管という意識をいま以上に持ち、運営管理を複数で担うという視点も求めたい。
3	タイトル	療育目標に基づき各専門職が連携して支援を実践し、記録や家族への連絡も丁寧に行なっているが、時代に即したICT化の推進に期待したい
	内容	事業所では「丈夫な体・意欲・共感・身辺自立」という療育目標を掲げ、保育指導員はじめ看護師等の専門職が連携し、きめ細やかな支援を提供している。また、保護者とも交流や連携を図る機会を多く設け、行事への参加や保護者会・父母会等を通じて、事業所と保護者が一体となり子ども達の療育に取り組んでいる。一方で、記録業務は、パソコン設備が充実しているにもかかわらず、その多くが手書きで行なわれている。今後は、業務の効率化や情報共有の充実に向けて、更には災害など緊急時の家族への連絡手段の確保も含め、ICT化の推進に期待したい。